



# えがお大東っ子

## 第59号

大東市のホームページでも「えがお大東っ子」をご覧くださいませ。

<http://www.city.daito.lg.jp/kakukakaranoosirase/gakoukyoiku/kyouikukenkyu/egaodaitoukko/>

### 人権教育の充実を

#### ～人権教育カリキュラムづくりワーキンググループ～

人権教育の目標に、「人権に関する知識を獲得し、自分の大切さ、他の人の大切さを認めることができ、それが具体的な態度や行動に現れるようにする」とあります。大東市では、「人権教育カリキュラムづくりワーキンググループ」の取組みを通して、人権課題の解決に向けた授業づくりを教職員の協働により進めています。

本取組みは、小中学校より参加の先生方が5つのグループに分かれて、

- ①人権課題についての先生方の学習会
- ②授業づくり（学習指導案の作成、検討）
- ③授業実践
- ④授業実践後の振り返り

という流れで毎年実践を積み重ねています。

今年度のテーマは「障がい理解教育」です。障がいのあるなしにかかわらず、だれもが過ごしやすい世の中になるようにと、子どもたちが様々な角度から「障がい」について考えられるように授業が計画されています。

人権課題を考える際に、「差別」や「偏見」という言葉がよく出てきます。「差別」や「偏見」は許されないことだということは、子どもたちもよく知っています。では、どういうことが「差別」や「偏見」にあたるのか、許されないことだと知っているのになぜ差別が生まれるのかなど、授業実践では絵本や動画、様々な教材を使用して子どもたちに人権課題と出合わせ、自分ならどのように行動するのか、仲間はどのように考えているのか、また、当事者はどのような思いでいるのかなど、仲間と交流しながら考えることができました。

「人権教育」という教科はありませんが、学校でのあらゆる活動を通して様々な人権課題と向き合うことで、誰もが人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を認め合える共生社会の実現のために、子どもたちの心を育てていきます。

「すべての人の人権が尊重されるまち  
大東市」をみんなで実現しよう！



## 大東市内の各学校園の取組み紹介のコーナー

### 四条中学校

### 「自分だったらどうするだろう？」



本校では、人権を大切にする心と態度を育む学習に取り組んでいます。様々な人権学習の1つとして1年生では障がいについての理解を深めるために、「アイマスク体験」や盲導犬ユーザーの方に講演に来ていただきました。生徒の感想には、「見え方にもいろいろあること、視覚障がいの方の危険な場面を見かけたら何が危ないかわからないので、「危ない」ではなく「とまれ」と声をかける方が良くことを知ったのでこれからは、声をかける」や「障がいがあるからといって特別扱いをしないでほしいということが分かった」などがありました。



2年生では、就職差別の「違反質問」について学習し、何が違反に当たるのか、また質問されて答えてしまった場合についてグループでロールプレイなどを行いました。

どの学習でも「自分だったらどうするだろう」と考えることができることを大切にしています。



### 四条小学校

### 「タブレットを子どもたちの文具に」

これまでもタブレットは授業に使われてきました。しかし、それはテレビに投影して子どもたちに見せる教具として使われていました。一人一台貸与されて一年経ち、子どもたちは、毎日持ち帰って家庭学習で使うこともあれば、授業で文具の一つとして使うようになりました。

1年生から自分のペースでタイピングに取り組み、3年生になるとプログラミングも行います。インターネット検索だけではなく、遠隔地の人にインタビューし、現地の生の声も聞いています。

個別最適な学習に向いているのは言うまでもありませんが、タブレットを使うことでその前後に学ぶ目的をペアやグループで確認し、学んだことを振り返り、協同的に学んでいます。

コロナ感染状況に応じたりリモート学習にも備えつつ、今後も、一人ひとりの子どもたちが、学びから逸れることなく学び続けたいとする取組みを進めていきます。





## 深野中学校

## 創立50周年をむかえて

1971年に大東市内4番目の中学校として開校して半世紀。昨年創立50周年を迎え、無事に今年、記念式典を挙行することができました。校訓「知性 創造 練磨 友愛」を掲げ、これまで12,653名が深野中学校を巣立ちました。

「よく聴き、よく見つめ、よく考え、健康で実行力のある生徒の育成」を学校教育目標として、教育活動を進めています。この目標の「よく」には、「自分たちで」という意味が込められています。学校生活・授業・部活動・友人関係・自分自身・家庭や地域について「自分たちで」考えて行動できる生徒の育成をめざしています。

学習面では、生徒主体の授業が学力向上に直結するという考えから、生徒が互いに学び合う授業を進めています。行事などでも、つねに生徒が主体性をもって取り組めるよう、生徒に寄り添いながら教育活動にあたっています。

442名の生徒たちは、困難なことにおいても失敗を恐れずに挑戦することを大切にしており、深中生であることに『誇り』をもって何事にも前向きに学校生活を送っています。



## 四条北小学校

## 自ら考え行動する、心豊かで、たくましい子の育成

深野北小学校との統合により、南津の辺町を新たな校区に加えてスタートした四条北小学校が、来年度創立10周年を迎えます。創立時から続く縦割り活動（わくわくタイム）は、集団登校とともに異年齢の子どもたちがふれあい、心が豊かに育つ時間です。

計画・準備・進行は6年生のリーダーによるものです。毎回“ふりかえり”を行って次の活動に活かします。自ら考えて行動する姿がそこにあります。これは、長休時の終わりを知らせる予鈴はなくても5分前には、自ら教室に戻る本校の子どもたちの姿にも見ることができます。

今年度、求める子どもたちの姿や具体的な教育活動などを保護者の皆様に伝えるために、「よくわかる四条北小学校」を配付しました。学校教育をよく知っていただき、家庭・地域とともに子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

昨年に続いてのコロナ禍で、多くの制限がありながらも、皆様のご理解を得ながら教育活動を進めてきました。「新しいことをスタートさせる年」と言われている寅年。さらに「通いたい・通わせたい学校」をめざしていきます。



## 深野小学校

### 「未来を切り拓くたくましい『ふこのっこ』の育成をめざして」

来年度、深野北小学校と深野小学校が統合して10周年を迎える深野小学校は、学校目標である「未来を切り拓くたくましい『ふこのっこ』の育成」をめざして、学習や学校行事等の活動に取り組んでいます。なかでも、昨年度から全児童に貸与されているタブレットをさまざまな形で学習に活用しています。

**取組み例①** 外国語の授業で、自分の好きな国について、タブレットを使ってその国の食べ物などを調べ、パワーポイントを使って英語で紹介する。

**取組み例②** 本年度より全校で取り組んでいる、ふこのっこプライド「あたりまえのレベルをあげよう」の「あたりまえ」について、自分たちに何ができるかを考え、プレゼンテーションを行う。

(そこから「トイレのスリッパをならべよう」や「チャイム着席を守ろう」「使わない電気は消そう」など、たくさんのアイデアがでました。)

これからも、子どもたちが「自分自身の未来をたくましく切り拓いていける」よう取り組んでいきます。



## 食育授業の紹介 「学校生活をパワーアップする朝食について考えよう！」



諸福中学校でタブレットを活用した食育授業が行われました。

「朝食内容を振り返り、よりよい朝食内容を考え、習慣づけようという意欲を育てる。」を目標に、事前にタブレットを用い、生徒たちに朝食に関するアンケートを行いました。

アンケート結果から、「体温が上がり、体が目覚める」は85.7%、「朝食を食べると脳の働きが良くなる」は84.8%と、多くの生徒が朝食を食べるメリットを理解していることが分かりました。アンケート結果をもとに、主食・主菜・副菜・汁物・果物がどのような役割をもっているのかを考え、朝食内容を自分たちで振り返り、ステップアップした献立を考えました。

自分たちの朝食内容について振り返り、次にプリントにまとめます。そして、バランスの良い食事を考え、追加できるものはないかを調べます。その後、生徒同士でアドバイスを行い、さらにレベルアップをめざす献立にしました。

授業の終わりの生徒たちの振り返りには、「スープだけではなく具を入れる!」「寒い時期には温野菜が良い!」「小学校でもやったけど、食育の大切さが今日の授業でよく理解できた!」などの記載があり、生徒自身が意欲的に取り組むことができました。栄養教諭や担任の先生たちが協力し、これからも生徒たちの体が健康で強くなるよう食育の授業に取り組んでいきます。

10月諸福中学校にて実施

